

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 総括・評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略1】若い世代の希望の実現～若者・子育て世代の定住環境の創出～
目標	【目標①】子育て環境日本一【重点目標】
基本的方向性 (抜粋)	若い世代が安心して結婚し、子どもを産み育てられるよう、子育てしやすい環境の整備や、出会いから結婚、妊娠、出産、子育てなど、各ライフステージに応じた支援の展開により、子育て環境日本一のまちを目指します。

2 計画期間全体の総括・評価

主要事業の 取組状況 (実施ベース)	<p>【施策①：子どもと住みたい龍ヶ崎】の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保育環境の充実 駅前子どもステーション・子育て支援センターの運営、リフレッシュ保育、ファミリーサポートセンター、保育士等の就業支援(修学資金貸付制度・家賃補助制度)、図書館北竜台分館の整備 ○学童保育ルームの充実 学童保育ルームの民間委託、支援員のスキルアップ ○医療・健診体制の充実 小児救急医療輪番制度の運用、4歳児眼の健康診査、歯科健診の充実 <p>【施策②：出会い・結婚・妊娠・出産・子育ての各ステージに対応した切れ目のない支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「龍ヶ崎市版ネウボラ」等のきめ細やかな子育て支援の充実 保健師・母子保健コーディネーター・子育て支援コンシェルジュを中心としたサポート体制の確立、乳児家庭の全戸訪問、電子母子手帳、子ども家庭総合支援室の設置 ○出会い・結婚のサポートの充実 マリッジサポーターとの連携(出会いの場の創出)、いばらき出会いサポートセンター入会登録料助成 ○不妊治療・不育症治療を受けている方への支援 <p>【施策③：若者・子育て世代への経済的な支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○若者・子育て世代の住み替え支援 ○医療費の助成 ○多子世帯支援 第3子以降への給食費負担金の免除、子育てガイドブックの作成 							
取組の 成果	<p>【子育て環境日本一】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点目標の一つとして各施策に積極的に取り組み、「子育てしやすいまちであると感じる市民の割合」が向上 ・新設保育所の誘致や既存保育所の定員拡大、認定こども園への移行を促進するとともに、課題であった保育士等確保に向けた支援策を展開し、待機児童ゼロを継続 ・若者・子育て世代住宅取得補助金制度により約713世帯(平成29年度～令和3年8月)の定住化を促進 							
取組の 課題	<p>【子育て環境日本一】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種施策により満足度は向上したものの、出生率や出生数の向上にはつがなっていない。 ・女性就業率の上昇等に伴う保育ニーズの多様化への対応 ・子育てに関する相談体制の強化 ・小児救急医療体制の維持・継続 ・新型コロナウイルス感染症などの影響による地方への移住ニーズの取り込み 							
	数値目標	ベース値 (H27)	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	目標値 (R3)
①	合計特殊出生率	1.27	1.27	1.24	1.12	1.05	0.94	1.50
②	子育てしやすいまちであると感じる市民の割合(%)	39.9	-	42.8	-	-	48.3	50
分析	<ul style="list-style-type: none"> ・合計特殊出生率は、この5年間で大きく減少。特に令和元年以降は、新型コロナウイルス感染症の影響も加わり、出生数は大幅減少 ・子育てしやすいと感じる割合は、子育て世代に向けた施策の充実により増加傾向 							

3 次期最上位計画への反映

将来予測と 方向性	<p>【将来予測】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出生率や出生数の大幅な向上は見込めない状況が継続、晩婚化の進行 ・保育ニーズや子育て支援に対するニーズの多様化 ・ワークライフバランスの進展 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出生率や出生数を上昇させるための具体的施策の展開(第2子以降の出産等支援、結婚支援等) ・保育・預かりサービスや医療体制、相談体制の充実など、安心して子育てできる環境整備の継続 ・「子育てしやすいまち」であることの内外へのPR、プロモーションの強化
--------------	--

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 総括・評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略1】若い世代の希望の実現～若者・子育て世代の定住環境の創出～
目標	【目標②】住んでみたいと感じるまちづくり
基本的方向性 (抜粋)	都心への通勤圏であることの優位性を活かした都心に通えるまちづくりを進め、転入促進・転出抑制を図ります。また、特色ある教育環境の創造や生涯学習・生涯スポーツの推進などにより、住んでみたいと感じるまちづくりを進めます。さらに、豊かな自然を守り、未来へ引き継ぐためにも、自然・人にやさしい環境づくりに取り組みます。

2 計画期間全体の総括・評価

主要事業の 取組状況 (実施ベース)	<p>【施策①：「選ばれるまちづくり」による移住・定住の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○若者・子育て世代の住み替え支援、空家バンク制度の構築 ○居住環境の優位性・魅力度の戦略的PRの展開 子育て環境情報サイト「子育てたつのこアクション」の運営、駅名改称事業と連動したプロモーション活動、子育て応援マガジン「たつのこそだて」の制作 ○「通えるまちづくり」の推進 路線バスICカード導入、深夜バス運行、龍ヶ崎市駅東口ロータリーの改修(関係団体協議・実施設計)、龍ヶ崎市駅東口トイレ改修 <p>【施策②：特色ある教育環境の創造】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○龍・流連携事業の拡充 ○多様な学習機会の提供、魅力ある学校づくり推進事業 アフタースクール・サタデースクールの実施、地域と学校の交流事業、シティズンシップ教育の推進 <p>【施策③：大学等と連携した人材育成と生涯学習・生涯スポーツの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スポーツによる交流人口の増加 国体の運営、オリンピック等のキャンプ地招致、スポーツ交流協会への支援、スポーツツーリズムの推進(スポーツによる地方創生官民連携プラットフォームへの参画) <p>【施策④：環境先進都市を目指したまちづくりの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域リサイクル事業の推進、ごみの減量、龍ヶ崎市自立・分散型エネルギー設備促進事業 サンデーリサイクル活動、資源物回収助成事業、ごみ減量キャンペーン、太陽光発電システム等導入補助金、家庭用燃料電池システム等導入補助金 							
取組の 成果	<p>【移住・定住の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者・子育て世代住宅取得補助金制度により約713世帯(平成29年度～令和3年8月)の定住化を促進 ・各情報媒体で居住環境の優位性などを発信。「子育てしやすいまち」をPR ・「通えるまちづくり」に向けた、公共交通利便性の向上 <p>【特色ある教育環境・生涯学習・生涯スポーツ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校で魅力ある学校づくりに取り組み、シティズンシップの醸成や地域との交流機会が増加 ・オリンピック事前キャンプの受け入れ、スポーツツーリズムの促進による交流人口の増加 <p>【環境先進都市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生エネルギーの普及など市民の環境に配慮した取組を支援 							
取組の 課題	<p>【移住・定住の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口の維持、社会増など目に見える成果につなげることは難しい状況 ・龍ヶ崎市駅周辺の駅前にふさわしい環境整備(東口ロータリー整備等) ・「住んでみたい」と感じてもらうための効果的な周知・PR活動 <p>【特色ある教育環境・生涯学習・生涯スポーツ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックレガシーの活用、スポーツを通じた交流人口の拡大 <p>【環境先進都市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮する市民の裾野を広げていく取組の検討 							
数値目標		ベース値 (H27)	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	目標値 (R3)
①	人口減少の抑制(住民基本台帳人口)(人)	78,568	78,115	77,699	77,366	76,988	76,505	78412
②	純移動数(社会増減)(人)	-174	-133	-34	30	-257	222	90
分析	<ul style="list-style-type: none"> ・人口は、目標に対して約2,000人下回っている状況。社会増減も想定を上回るスピードで減少 ・若年人口の都心への流出が主な要因と考えられ、また、一度流出すると回帰しない傾向が見られる ・新型コロナウイルス感染症の影響による地方移住の傾向を注視する必要性 							

3 次期最上位計画への反映

将来予測と 方向性	<p>【将来予測】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国的な人口減少により、市町村による人口の取り合いが表面化 ・人口減少は今後も進行。一方、地方移住の増加傾向が継続していく可能性 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転入増加とあわせて転出抑制を意識した施策の強化 ・子育て若者世代をメインのターゲットとしつつも、安心安全や生活利便など、全体的な暮らしやすさの向上に資する施策の展開
--------------	--

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 総括・評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略1】若い世代の希望の実現～若者・子育て世代の定住環境の創出～
目標	【目標③】人口減少社会に対応したまちづくり
基本的方向性 (抜粋)	既存市街地の魅力を高め、にぎわいや交流の拠点を形成することにより、交流人口の増加と転入促進・転出抑制を図ります。また、公共施設における縮充の取組や、交通ネットワークの充実などにより時間距離を短縮する多極ネットワーク型コンパクトシティを推進します。

2 計画期間全体の総括・評価

主要事業の 取組状況 (実施ベース)	<p>【施策①：魅力ある都市拠点の形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○龍ヶ崎市街地のにぎわい創出 関東鉄道竜ヶ崎駅交通結節点としての機能強化と公衆トイレ改修、まちなか再生プランの策定・推進 ○JR常磐線龍ヶ崎市駅を起点としたにぎわいの創出 JR常磐線佐貫駅駅名改称事業、駅名改称事業を契機としたイベントの実施(関係団体等との連携) ○新都市拠点開発エリアの土地の高度利用の検討 ○多極分散型コンパクトシティの形成に向けた立地適正化計画の策定 <p>【施策②：公共施設の縮充等、既存ストックのマネジメント強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○効果的、効率的な既存ストックのマネジメント方策の推進 公共施設再編成第2期行動計画の推進、旧長戸小学校・旧北文間小学校の跡地活用、市民フォーラムの開催、新保健福祉施設整備の推進、城南中学校跡地利用の検討、未利用市有財産の活用 							
取組の 成果	<p>【魅力ある都市拠点の形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少社会に対応するため、コンパクトシティの推進やにぎわいの創出など、基本方針を決定 ・駅名改称を契機としたプロモーションの展開、関係団体や市民との連携強化 <p>【公共施設の縮充等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の縮充へ向けた具体的な方針を決定 ・小中学校の統合などによる、縮充へ向けた具体的な取組を実施(旧長戸小・旧北文間小) 							
取組の 課題	<p>【魅力ある都市拠点の形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立地適正化計画やまちなか再生プランに基づく具体的な取組の検討及び実施 ・龍ヶ崎市駅周辺の玄関口にふさわしい環境の整備 ・新都市拠点開発エリアの方向性 <p>【公共施設の縮充等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・城南中学校跡地など、小中学校の適正規模適正配置の動きと連動した利活用の検討 ・公共施設の再編成に関する市民の理解促進 							
数値目標		ベース値 (H27)	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	目標値 (R3)
①	住み心地を良いと感じる市民の割合 (%)	84.6	-	83.4	-	-	84.5	90
分析	<ul style="list-style-type: none"> ・住み心地を良いと感じる割合は、横ばいの状況であるが高水準を維持 ・40歳代の満足度は、他世代よりも高い。子育て環境の充実や民間での住宅開発と商業施設誘致が影響を与えた可能性 							

3 次期最上位計画への反映

将来予測と 方向性	<p>【将来予測】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少は今後も進行。店舗など生活利便施設・サービスの撤退やサービス低下が懸念。買い物弱者、交通弱者が増加していく傾向 ・まちづくりの考え方も「コンパクトシティ化」が主流 ・小中学校の適正規模適正配置が進展し、跡地活用が課題に <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各市街地の地域生活拠点の機能やアクセス性を強化 ・公共施設の「縮充」の取組を市民の理解や協力を求めながら継続
--------------	--

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 総括・評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略2】教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」
目標	【目標④】龍の子の生きる力を育むまちづくり
基本的方向性 (抜粋)	児童生徒の「確かな学力」、「豊かな心」、「健康な体」とともに自主性や社会性を育む教育を推進することや、義務教育環境の更なる向上のための小中一貫教育の推進など、少子化や人口減少社会に対応した教育環境の整備を図ります。

2 計画期間全体の総括・評価

主要事業の 取組状況 (実施ベース)	<p>【施策①：知・徳・体のバランスのとれた教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICT教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> GIGAスクール構想の推進(全児童生徒への学習用端末整備、デジタル教科書) ○外国語教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ALTを活用したコミュニケーション能力の育成、実用英語技能検定料助成 <p>【施策②：自主性や社会性を育む教育環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小中一貫教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> 「龍の子人づくり学習」の実施(社会参画力の育成:キャリア教育、シティズンシップ教育) ○小中学校の適正規模適正配置の推進 <ul style="list-style-type: none"> 愛宕中学校と城南中学校の統合準備 <p>【施策③：魅力があり、信頼される学校づくりの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育の日推進事業の充実 <ul style="list-style-type: none"> 「たつのごプロジェクト」(児童生徒による地域貢献活動)、家庭・地域・学校をテーマにした事業の実施 <p>【施策④：一人ひとりの心に寄り添う教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○インクルーシブ教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> 就学相談などの実施、教育支援に関する研修会などの実施、スクールソーシャルワーカーの派遣 ○つぼみ園の充実 <ul style="list-style-type: none"> つぼみ園の移転に伴う準備、児童発達支援センター化の検討 <p>【施策⑤：学びを支える教育環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活困窮世帯への支援事業 <ul style="list-style-type: none"> 認定NPO法人等による学習支援・居場所づくりに対する支援 ○龍ヶ崎市学校給食センター整備事業 <ul style="list-style-type: none"> 新学校給食センター建設(用地確保、設計、契約事務) 							
取組の 成果	<p>【教育環境の整備・学校の魅力づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づき、「主体的・対話的で深い学び」を得るための授業改善など、具体的な取組を実施 ・ICT環境の整備、外国語教育など、ハード・ソフト両面での充実した教育環境を整備 ・学校の適正規模適正配置に関する基本方針に基づき、小中学校の再編成を検討し、愛宕中と城南中の統合を令和4年4月に実施 <p>【一人ひとりの心に寄り添う教育の推進・学びを支える教育環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学に問題を抱える児童生徒や保護者に対する支援を強化し、多様化するニーズへ対応 ・よりよい教育環境をめざし、新学校給食センターの整備に着手 							
取組の 課題	<p>【教育環境の整備・学校の魅力づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実したICT環境(ハード面)を活かすための支援体制 ・児童数・生徒数の減少に対応した小中学校の適正規模適正配置の推進 <p>【一人ひとりの心に寄り添う教育の推進・学びを支える教育環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様化・複雑化する就学困難事例に対する効果的な対応の検討 							
数値目標		ベース値 (H27)	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	目標値 (R3)
①	小中学校の教育内容・施設に満足している市民の割合(18歳～50歳)(%)	41.4	-	40.8	-	-	42.1	46
②	将来の夢や目標を持っていると答えた児童生徒の割合(%)	児童84.6 生徒68.4	-	児童84.5 生徒71.2	-	-	児童78.8 生徒69.5	児童90 生徒75
分析	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容や施設への満足度は、徐々に増加傾向 ・充実した教育環境や相談体制の整備などが影響を与えた可能性 							

3 次期最上位計画への反映

将来予測と 方向性	<p>【将来予測】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒数の減少。適正規模適正配置の重要性の高まり ・教育的配慮が必要な児童生徒の増加、学校不適應などの問題の複雑化・多様化 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性などに応じた適正規模適正配置の推進 ・「龍の子人づくり学習」を軸とした地域等との連携強化 ・個に応じたインクルーシブ教育の推進
--------------	---

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 総括・評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略2】教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」
目標	【目標⑤】子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり
基本的方向性 (抜粋)	家庭教育の充実に向けて支援するとともに、家庭、地域、学校などが連携を図り、子どもたちが安全・安心な環境と地域のつながりの中で健やかに成長し、自立心が育まれるようなまちづくりを進めます。また、生涯にわたる人格形成の基礎となる幼児教育の充実にも取り組みます。

2 計画期間全体の総括・評価

主要事業の 取組状況 (実施ベース)	<p>【施策①：家庭の教育力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の子育て支援拠点の充実 民間の子育て支援センターへの運営費補助 ○各種セミナーの開催 子どもを持つ親たちへ向けた「子育てふれあいセミナー」の実施 <p>【施策②：幼児教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園・保育園(所)・認定こども園と小学校の連携 保幼小連携協議会の運営、研修会の実施 ○子どもの読書活動の推進 図書館司書による出前講座・おはなし会、電子図書館システムの拡充 <p>【施策③：子どもが健全に育つ環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学童保育ルームの充実 学童保育ルームの民間委託、支援員のスキルアップ ○多様な学習機会の提供 アフタースクール・サタデースクールの実施 <p>【施策④：子どもの交流と活動の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの交流・活動拠点の充実 認定NPO法人等による「子どもの居場所づくり事業」への支援、子どもの遊びの拠点づくり事業の実施 ○子どもの地域活動への参加促進 小中学生の市内一斉清掃への参加促進、「あいさつ・声かけ運動」の実施 							
取組の 成果	<p>【家庭教育・幼児教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域子育て支援センターの運営等による相談支援体制の整備 ・幼児教育と義務教育の円滑な接続を推進するための小学校との連携体制の整備 <p>【子どもの健全育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学童保育ルームは、運営方式の見直し(民間委託)などによる効果的な運営体制が整備 ・多様な学習機会を確保し、学校外での活動を推進 <p>【子どもの交流活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの居場所づくり、地域活動への参加促進を図り、子どもの活発な活動を支援 							
取組の 課題	<p>【家庭教育・幼児教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てに関する意識の多様化などを考慮し、さらなる効果的な取組を検討する必要性 <p>【子どもの健全育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの多様性を意識した充実した取組の検討 <p>【子どもの交流活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズの把握と分析を行い、効果的な取組を検討 							
数値目標		ベース値 (H27)	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	目標値 (R3)
①	若者が健全に育つ環境に満足している市民の割合(%)	27.5	-	28.8	-	-	18.4	33
②	小学校入学前の子どもたちへの教育内容・施設に満足している市民の割合(18歳～50歳)(%)	38.7	-	39.1	-	-	41.5	44
分析	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容・施設における満足度は高く、一方で、若者の健全育成に対する満足度は低い状況 ・学校における教育以外の教育活動について、取組の規模が小さく、満足まで昇華されない可能性 							

3 次期最上位計画への反映

将来予測と 方向性	<p>【将来予測】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てに関する意識の多様化 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育や幼児教育については多様化する市民ニーズを把握しながら必要なサービスを提供 ・学校外での居場所づくりや交流促進については民間事業者やNPO法人等との連携を基本に検討
--------------	--

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 総括・評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略2】教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」
目標	【目標⑥】生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり
基本的方向性 (抜粋)	各年齢に対応した生涯学習環境を充実させるとともに、文化芸術に親しむ機会の充実と文化芸術活動の促進を図ります。また、文化財の保存・活用を進め次世代に引き継ぐとともに、地域に対する自信や誇りの醸成を図ります。さらに、生涯を通じてスポーツに親しめる環境を整備します。

2 計画期間全体の総括・評価

主要事業の 取組状況 (実施ベース)	<p>【施策①：生涯学習環境の充実と人権教育・啓発の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民大学講座の充実 龍・流連携事業による各種講座の実施 ○中央図書館の利便性向上 インターネット蔵書検索・予約システムの導入、市立図書館北竜台分館の開設 ○人材バンクの充実 市民が講師として登録する人材バンク制度の運用 <p>【施策②：文化財の保存・活用と文化芸術に親しむ機会の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民遺産の認定 市民遺産制度の運用、市民遺産を活用したイベント開催 <p>【施策③：スポーツ環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○流通経済大学運動部との連携 運動部応援バスツアーの開催、公式戦の周知PR、市施設の優先貸出、大学卒業生の応援活動の実施 ○スポーツ施設の充実 総合運動公園などにおける設備環境の充実、北文間運動広場の新設 							
取組の 成果	<p>【生涯学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習環境の充実に向けて、中央図書館のICT化を推進、北竜台分館を開設 ・「龍・流連携事業」を活用した市民大学講座や人材バンク制度など、学ぶ意欲への支援を実施 <p>【文化財保護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民遺産制度を運用し、文化財の散逸を防止し、これらを活用したイベントなどを実施し、意識啓発を促進 <p>【スポーツ環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大学のあるまち」を活かし、流通経済大学運動部との連携事業など、市民へのスポーツ環境をPRするとともに、各運動施設の設備を充実し、誰もが利用しやすいスポーツ環境を整備 							
取組の 課題	<p>【生涯学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の観点から、市民の文化芸術に係る取組の掘り起こしと支援策 ・市民が主体的に行う生涯学習の機会や場を提供するなどの支援策の充実 <p>【文化財保護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民遺産制度の市民への認知の向上、活用事例の増加 <p>【スポーツ環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流通経済大学運動部との連携にあっては、市民がより興味を持ってもらえるような取組を検討 ・市民のニーズを把握し、適切な施設の維持を実施 							
数値目標		ベース値 (H27)	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	目標値 (R3)
①	生きがいづくりや趣味を楽しむ機会・場所に満足している市民の割合(%)	29.7	-	31.2	-	-	26.7	35
②	芸術や文化に触れ親しむ機会・施設に満足している市民の割合(%)	30.6	-	31.6	-	-	26.9	36
③	体を動かし、スポーツやレクリエーションに親しむ機会・施設に満足している市民の割合(%)	49.9	-	51.3	-	-	47.7	55
分析	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツに対する満足度に対し、生きがいづくりや文化芸術に対する満足度は低い状況 ・施設整備や取組の充実度に連動して、満足度も推移している可能性 							

3 次期最上位計画への反映

将来予測と 方向性	<p>【将来予測】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気なシルバー世代が増加。生涯学習やスポーツへのニーズの高まり <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズの高まりに応じて、既存ストックを活かしつつ、自らが気軽に生涯学習・スポーツなどへ取り組める環境を充実 ・文化芸術は、市民の活動への参画機会や場の確保などの取組を検討
--------------	---

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 総括・評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略3】地域活性化「まちの活性化と認知度向上」
目標	【目標⑦】市民活動日本一【重点目標】
基本的方向性 (抜粋)	市民一人ひとりがまちづくりの担い手として意識を持って行動し、活発な市民活動によりまちが活性化していく市民活動日本一のまちを目指して、「公共を皆で担う」気運の醸成を図るとともに、市民協働のまちづくりに取り組んでいきます。

2 計画期間全体の総括・評価

主要事業の 取組状況 (実施ベース)	<p>【施策①：協働の取組によるまちづくりの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○協働事業提案制度の推進 市民提案型及び行政提案型の協働事業提案制度の運用 ○公共施設里親制度の推進 各団体による公共施設の里親制度の運用、制度の周知PR <p>【施策②：自主的で活発な市民活動の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まちづくり・つなぐネットの推進 地域における活動への事業所・団体等のマッチングの実施 ○まちづくりポイント制度の推進 制度の周知PR、ポイントシールの配布、ポイント交換の実施 <p>【施策③：市民と行政の情報共有などを目指した情報発信力の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報発信機能の充実 市公式ホームページ・SNS等の運用、市公式LINEの運用、市政情報モニター・デジタルサイネージ <p>【施策④：市民参加のまちづくりの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民参加の機会の充実 市長との意見交換会や地域における懇談会の開催、かたらい広場の開催、インターネット市政モニターの運用、市長への手紙 							
取組の 成果	<p>【市民活動日本一】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点目標の一つとして市民自らが担う「公共」の意識啓発や活動を促進 ・協働提案制度に基づく、市民自らの活動への支援体制の充実、活動の活性化 ・まちづくり・つなぐネットやまちづくりポイント制度など、市民活動がしやすい体制の整備 <p>【広報・広聴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な媒体による情報発信体制の整備と運用による、適時性のある情報発信の実施 ・市民から直接意見をもらう場だけでなく、時代に即し、インターネット活用による意見聴取を充実 							
取組の 課題	<p>【市民活動日本一】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や市民活動の担い手の高齢化など、市民活動の持続可能性に視点を置く必要性 ・市民アンケート結果からも、全体として市民活動への参画意欲が低く、「自ら」取り組む意識の醸成 ・特定の市民などに限らず、市民活動の裾野を広げていく周知活動の徹底 <p>【広報・広聴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢の変化に対応し、必要とする情報を適切な媒体で発信するための職員の意識の向上 ・市民の多様性などを意識した、様々な手法での広聴機会の確保 							
数値目標	ベース値 (H27)	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	目標値 (R3)	
① 市民活動への支援や参加できる機会に満足している市民の割合(%)	24.5	-	26.5	-	-	23.3	30	
分析	<ul style="list-style-type: none"> ・数値的には、一時的に上昇しているものの、最終的には減少傾向にある ・地域における人間関係の希薄化やライフスタイルの多様化から、市民活動への主体的な参加機会が少ないことも影響 							

3 次期最上位計画への反映

将来予測と 方向性	<p>【将来予測】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動や地域活動に主体的に取り組んでいる世代の高齢化による担い手不足の顕在化 ・行政需要の広範囲化等により、行政のみで公共サービスを担うことが困難に <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動が、住民自治組織活動などの分野に限定されずに、幅広い分野に裾野を広げる必要性 ・市民自らが「公共」を担うという意識の醸成と行動変容の促進
--------------	---

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 総括・評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略3】地域活性化「まちの活性化と認知度向上」
目標	【目標⑧】地域の潜在力を活かした仕事とにぎわいを創出するまちづくり
基本的方向性 (抜粋)	企業立地促進や起業・創業支援などを通じた地域経済の活性化と雇用創出により、若者の転出抑制、UIターン促進を図ります。また、女性やアクティブシニアの活躍が期待されることから、スキルアップ支援や活躍・雇用の場の創出を図ります。

2 計画期間全体の総括・評価

主要事業の 取組状況 (実施ベース)	<p>【施策①：産業、金融、行政の連携による地域産業の維持・強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○龍ヶ崎産品の販路拡大 観光物産協会ブランド「プティアークユ龍ヶ崎」の支援 ○起業・創業の支援 起業家タウンMatch広域連携事業(創業スクール、社長塾、ビジネスコンテストなど)、創業促進補助金 ○企業立地促進策の充実・つくばの里工業団地拡張事業 つくばの里工業団地の拡張、企業立地推進奨励金、中小企業事業資金あつ旋、展示会等出展への補助 <p>【施策②：若者、女性、アクティブシニア層を中心とした人材の育成・還流・定着の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○若者のスキルアップ支援・大学卒業生などの地元就職の促進 保育士等への修学資金貸付・家賃補助、企業合同説明会の実施、市内高校対象の企業訪問学習会 <p>【施策③：認知度向上、地域ブランド確立等による付加価値の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○シテプロモーション事業 子育て環境情報サイト「子育てたつこのアクション」における各種取組、LINEを使ったターゲット広告の配信、WEBメディアへの広告掲載 ○道の駅整備事業・牛久沼の有効活用・道の駅総合プロデュース 道の駅整備に係る基本設計・実施設計の実施、牛久沼周辺首長会議の運営 <p>【施策④：農業の活性化支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○龍ヶ崎ブランド農産品の拡大 市産農産物を使った製品開発、食と農のアンバサダーによる市産農産物を使ったレシピ集の作成 ○直売所(たつこの産直市場)の充実 							
取組の 成果	<p>【地域産業の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起業・創業支援事業を展開し、起業者の増加に寄与。拠点施設「Match」も利用者増加傾向 ・つくばの里工業団地を拡張整備し、全区画を分譲完了 <p>【人材の育成・還流・定着】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者をターゲットとしたスキルアップ支援(保育士等への修学資金貸付など)による就業者の増加 <p>【認知度向上・地域ブランド確立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子育てたつこのアクション」など、様々なメディアを活用した取組で、市の魅力や認知度向上 ・市民向け、市外の方向けなど、明確にターゲットを設定した効果的なプロモーション活動 <p>【農業の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市産農産物のブランド化と並行し、製品開発や市産農産物のレシピ開発などによる農業の活性化 ・直売の場を確保したことによる、市産農産物の認知度向上や農業者への支援 							
取組の 課題	<p>【地域産業の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用を生み出す地域産業の掘り起こし ・新型コロナウイルス感染症の影響による地方移住、地方への企業拠点移動などへの対応策検討 <p>【人材の育成・還流・定着】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生、特に流通経済大学学生の市内への就職数が少なく、取組のターゲットとして設定を検討 ・企業などと連携し、幅広い就業先の確保と、市内企業の就職予定者への周知活動の強化 <p>【認知度向上・地域ブランド確立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・牛久沼活用、道の駅整備の今後の方向性の整理 ・プロモーションの手法や考え方の市全体での共有化 <p>【農業の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業者の後継問題など、市の基幹産業である農業の持続可能性への取組の検討 							
数値目標	ベース値 (H27)	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	目標値 (R3)	
① 就職者数(ハローワーク龍ヶ崎)(人)	922	786	734	630	481	453	930	
分析	<ul style="list-style-type: none"> ・数値は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、大幅な減少をしており、厳しい状況 ・若者の雇用の場の確保のための取組の成果を考慮して、取組を検討する必要性 							

3 次期最上位計画への反映

将来予測と 方向性	<p>【将来予測】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方への移住や企業の拠点の移動、働き方改革の進展などによる人の流れの変化 ・圏央道4車線化やインターへのアクセス向上による広域道路ネットワークの向上 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナによるダメージなどを踏まえ、地域経済の活性化に向けた取組を積極的に支援 ・雇用の場の創出に当たっては、学生などの就業予定者のニーズに応じた施策展開を図る ・テレワークやワーケーションなど、アフターコロナを見据えた新たな働き方に対応できる取組の検討
--------------	---

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 総括・評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略3】地域活性化「まちの活性化と認知度向上」
目標	【目標⑨】大学と連携した特色あるまちづくり
基本的方向性 (抜粋)	大学のあるまちという魅力を活かし、まちと大学の双方の活性化につながるような連携体制を充実させていきます。

2 計画期間全体の総括・評価

主要事業の 取組状況 (実施ベース)	<p>【施策①：龍・流連携事業の認知度の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○龍・流連携事業に関する情報の発信 大学運動部の情報の市公式ホームページ等での発信、デジタルサイネージ等を活用した情報発信 <p>【施策②：大学（学生）・市民の交流促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民大学講座の充実 龍・流連携事業による各種講座の実施 ○流通経済大学運動部との連携 運動部応援バスツアーの開催、公式戦の周知PR、市施設の優先貸出、大学卒業生の応援活動の実施 <p>【施策③：産・学・官連携の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大学卒業生などの地元就職の促進 流通経済大学における企業合同説明会、市内高校対象の企業訪問学習会の実施 ○観光ルート・魅力あるスポットの開発 流通経済大学との連携による観光プログラムの開発、まち歩きマップ「てくぱく」の作成 ○学生割引サービスの拡充 市内協力店における流通経済大学生への割引サービスの運用 							
取組の 成果	<p>【龍・流連携事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民大学講座や小中学校ボランティア学生派遣事業など「大学のあるまち」ならではの事業を展開 ・小中学校ボランティア学生派遣事業等の取組は特色ある教育環境の推進にも寄与 <p>【産・学・官連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国的にも特徴のある流通経済大学社会学部国際観光学科と連携し、観光プログラム作成 ・その他、高校、市内企業や商店などとの連携による取組展開 							
取組の 課題	<p>【龍・流連携事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・龍・流連携事業に関する市民の認知度向上と参加の促進 ・さらなる連携強化に向けた新たな連携事業の展開 ・卒業後の学生と継続的な関わり合いができる取組の検討 <p>【産・学・官連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学、企業などと、連携体制を構築した取組の推進 							
数値目標		ベース値 (H27)	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	目標値 (R3)
①	龍・流連携事業や大学のイベント、スポーツ応援、公開講座等に参加したことがある市民の割合(%)	13.2	-	13.7	-	-	13.9	18
分析	<ul style="list-style-type: none"> ・数値的には、わずかに上昇傾向であるものの、ほぼ横ばいの状況 ・イベントなどの取組の固定化により、幅広い市民へ認知されないことが要因の一つと考えられる 							

3 次期最上位計画への反映

将来予測と 方向性	<p>【将来予測】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流通経済大学のキャンパス選択制や少子化の進行により本市在住の学生が減少 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「龍・流連携」の枠組を最大限活用し、双方のメリットにつなげるための新たな取組の検討 ・「龍・流連携」の市民へのPRと連携事業への参加促進 ・流通経済大学卒業後も何らかのかたちで龍ヶ崎市とのかかわりを継続する関係人口化の模索
--------------	--

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 総括・評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略4】地域力の向上「安全・安心で住みよい環境づくり」
目標	【目標⑩】防災・減災日本一【重点目標】
基本的方向性 (抜粋)	防災基盤の充実を図るとともに、消防団を中核とした地域の防災体制の充実を図ります。また、市民一人ひとりの防災・減災意識の高揚を図るなど、自助・共助・公助のバランスの取れた取組を推進し、防災・減災日本一のまちを目指します。

2 計画期間全体の総括・評価

主要事業の 取組状況 (実施ベース)	<p>【施策①：防災基盤の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○災害備蓄の充実と災害時応援協定等の拡大 災害時備蓄品の整備計画の策定、民間事業者との災害時応援協定の締結 ○防災貯留型トイレの整備 防災貯留型仮設トイレシステム(マンホールトイレ)の避難所への設置 ○防災行政無線のデジタル化 防災行政無線のデジタル化工事の実施、運用 <p>【施策②：消防団を中核とした地域防災体制の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地区防災計画の策定 地区防災計画の策定、策定協議 ○地域における防災訓練の充実 地域コミュニティ等を単位とした地域防災訓練の実施、防災に関する出前講座の実施 ○防災士の育成・養成 防災士の資格取得への補助金、防災士向けの研修会の実施 							
取組の 成果	<p>【防災・減災日本一】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点目標の一つとして、災害に強いまちづくりに向けた施策を「自助・共助・公助」の視点の下、積極的に展開。「自然災害への対策に満足している市民の割合」が向上 ・「自助」の視点では、「マイ・タイムライン」作成を支援。有事の際の避難行動を見える化 ・「共助」の視点では、地域・学校などと連携し、防災訓練を実施 ・「公助」の視点では、備蓄品整備、新型コロナウイルス感染症にも対応した避難所の整備など体制を強化 							
取組の 課題	<p>【防災・減災日本一】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区防災計画の策定が遅れているなど、地域による意識の差 ・市民に災害に対する備えや正しい理解の促進、理解に基づく避難行動への行動変容のさらなる促進 ・災害時に適切な判断ができるよう、防災訓練などを通じた継続的な取組 ・災害時の情報発信体制のさらなる強化 							
数値目標		ベース値 (H27)	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	目標値 (R3)
①	台風や地震など自然災害への対策に満足している市民の割合(%)	34.2	-	41.1	-	-	38.8	39
分析	<ul style="list-style-type: none"> ・重点的に取組を実施したことで、満足度は大きく上昇 ・市民の防災・減災に対する意識向上は、かなり高まってきているものと推測 							

3 次期最上位計画への反映

将来予測と 方向性	<p>【将来予測】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化の影響などによる激甚災害、新型コロナウイルス感染症などの世界的なまん延など、予測できない危機事象が増加 ・市民の防災に対する意識の向上 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取り組みを後退させることなく継続していくことが重要 ・「自助・共助・公助」それぞれの視点の重要性をより多くの市民に理解してもらうための啓発活動の推進 ・国土強靱化計画に基づく施策の推進
--------------	--

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 総括・評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略4】地域力の向上「安全・安心で住みよい環境づくり」
目標	【目標①】地域がつながる、安全・安心なまちづくり
基本的方向性 (抜粋)	地域の住民が互いに支え合い、安全・安心に住み続けられるよう、地域の力を維持・向上し、地域間の市民交流を促進することや、人と人とのつながりを活かした地域づくりを進めることなどにより、市民がいつまでも住み続けたいと感じるような安全・安心なまちづくりを進めます。

2 計画期間全体の総括・評価

主要事業の 取組状況 (実施ベース)	<p>【施策①：市内公共交通網の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティバス・乗合いタクシーの運行 コミュニティバス運行計画の再編、待合室「りゅう舎」の整備、バス停留所の整備、バスロケーションシステムの運用、待合施設の提供(「まてまて」)、「おたっしやバス」の発行・利用促進 <p>【施策②：地域コミュニティを核とした地域力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中核的な地域コミュニティ活動の促進 市内13地区における地域コミュニティ組織の立ち上げ ○地域交流拠点づくりの推進 龍ヶ崎市駅西口への社会福祉協議会西口支所の整備支援 ○長戸コミュニティセンターの建て替え <p>【施策③：地域の防犯体制の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の安全・安心の基盤向上 防犯カメラの設置、地域団体への防犯カメラ設置補助、防犯灯のLED化、車載カメラ設置への補助 ○地域での見守り、助け合い活動の推進 防犯パトロールの実施、地域安全キャンペーンの実施、高齢者等の見守りネットワーク事業 <p>【施策④：空家等対策の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○空家等対策の推進 空家等対策検討委員会・空家等対策推進協議会の運営、管理不全空家等への改善指導、弁護士・宅地建物取引士などとの連携による相談体制の整備 ○空家バンク制度 空家バンク制度の運用、空家相談会の実施 							
取組の 成果	<p>【地域公共交通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスの再編成やバスロケーションシステムの導入などにより、利便性が向上 <p>【地域コミュニティ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内全13地区における地域コミュニティ組織が設立し、地域独自の活動が開始 <p>【防犯・空家等対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラの設置拡充や新たな取組(車載カメラ設置への補助)による防犯体制の強化 ・空家等の相談や指導体制などの整備による管理不全の空家等の減少 ・空家バンク制度の運用が開始し、移住・定住促進策との連携による体制を整備 							
取組の 課題	<p>【地域公共交通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢の変化の影響や利用者の状況などを考慮し、コミュニティバスの持続可能性の検討 ・「利用しやすい」公共交通の整備 <p>【地域コミュニティ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティにおける自立した活動への促し、地域活動へ参画する人材の確保 <p>【防犯・空家等対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯体制を担う人材の確保と意識向上のための効果的な啓発活動の検討 ・空家等の活用を促す具体的な取組の検討 							
数値目標	ベース値 (H27)	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	目標値 (R3)	
① 地域の人々がふれあい、交流できる機会・内容に満足している市民の割合(%)	26.2	-	28.8	-	-	24.9	31	
分析	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の機会や内容への満足度は、大幅な上昇はなく、最終的には減少傾向 ・地域コミュニティをはじめ、地域での交流の場や機会はあるものの、数値上昇につながっていない 							

3 次期最上位計画への反映

将来予測と 方向性	<p>【将来予測】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の進行等による公共共通の利便性向上に対する期待の高まり ・防犯活動や地域活動の担い手不足 ・空家等の実数は増加傾向 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通については、市民ニーズを踏まえつつ、持続可能な取組となるよう検討 ・地域における活動は、自発的・自立的な活動となるようシフト ・空家等の既存ストックの活用を促進の強化
--------------	---

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 総括・評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略4】地域力の向上「安全・安心で住みよい環境づくり」
目標	【目標⑫】スポーツ健幸日本一【重点目標】
基本的方向性 (抜粋)	市民がスポーツ・運動を通じた健康づくりに取り組む環境を整備することで、健康寿命の延伸を図るとともに、高齢者が「健幸」な長寿社会を目指すなど、市民が生涯にわたり健やかで幸せな生活を送ることができるスポーツ健幸日本一のまちを目指します。

2 計画期間全体の総括・評価

主要事業の 取組状況 (実施ベース)	<p>【施策①：スポーツ・運動を通じた健康づくりの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○健康寿命の延伸に向けた運動習慣の普及 健康に関する講座の開催、健幸マイレージ事業の運営、てくてくロードや健幸ウォーキングマップの作成、いきいきヘルス体操・元気アップ体操の普及促進 ○マラソン大会の開催の推進 マラソン大会の開催準備(実行委員会の運営、各種協議、参加受付) <p>【施策②：高齢者の「健幸」力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○健康づくりの推進 特定健康診査の受診勧奨、医療機関胃がん検診の導入、糖尿病講演会の実施、肝炎検診の無料化 ○新保健福祉施設の整備推進 ○まいん「健幸」サポートセンターの開設・運営 健康づくりに関する講座・教室の開催 							
取組の 成果	<p>【スポーツ健幸日本一】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツや健康づくりに資する施設整備は、概ね整備ができています ・健幸マイレージ事業など、ソフト面では新たな事業も展開し、利用者も増加傾向 ・まいん「健幸」サポートセンターなどを活用し、講座や教室を開催し、高齢者の健康づくりに寄与 ・新たな健康づくりや子育ての総合的な支援の拠点として、新保健福祉施設の整備に向けた取組を着実に実施 							
取組の 課題	<p>【スポーツ健幸日本一】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツや運動に関心のない市民へのアプローチ ・元気に活動できるシニア世代が生涯にわたり活動へ取り組める環境整備 ・人口減少社会に向けた既存ストックの持続性の検討し、適切な施設を維持 							
	数値目標	ベース値 (H27)	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	目標値 (R3)
①	16歳以上の市民のうち、週1回以上運動やスポーツを行う人の割合(%)	43.2	-	-	-	-	51.9	65
②	体を動かし、スポーツやレクリエーションに親しむ機会・施設に満足している市民の割合(%)	49.9	-	51.3	-	-	47.7	55
③	健康診査などの受けやすさや健康づくりのしやすさに満足している市民の割合(%)	51.5	-	56.6	-	-	52.9	57
分析	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの満足度指標は、概ねベース値前後で推移しており、大きな変化がない状況 ・市民へのアプローチが限定的で、数値へ反映されない状況が推測される 							

3 次期最上位計画への反映

将来予測と 方向性	<p>【将来予測】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化は今後も急速に進行。元気なシニア世代が増加し健康づくりに関する需要増 ・シニア世代をサポートする現役世代の減少によるマンパワー不足 ・民間のスポーツジム、フィットネスクラブ等が増加 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気なシニア世代が活躍できる場や機会を充実し、「生涯現役」となれるような取組を推進 ・高齢者のみならず、市民全体が自ら健康づくりに取り組めるような環境整備を推進 ・民間施設との連携や役割の分担も模索
--------------	--

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 総括・評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略5】持続可能な行財政運営「将来につながる基盤づくり」
目標	【目標⑬】健全で効率的な行財政運営の推進
基本的方向性 (抜粋)	市民ニーズの多様化や需要増に対応できる人材の育成と確保、有効活用の観点による公共施設の効率的な管理運営に加え、財政健全化に努めていくことで、将来を展望した経営的な視点による健全で効率的な行財政運営を推進していきます。

2 計画期間全体の総括・評価

主要事業の 取組状況 (実施ベース)	<p>【施策①：人員の確保と人材育成の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人材育成・職員資質の向上 人材育成基本計画の策定、職員研修の実施(専門研修、特別研修など)、研修受講機会の拡充 ○人員管理計画の推進 職員採用試験における「総合能力試験(SPI3)」の導入 ○働き方改革の推進 特定事業主行動計画の策定、人事評価と連動した改革の推進 <p>【施策②：健全な財政運営の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中期財政計画の推進 予算要求における「枠配分」の実施、公共施設へのネーミングライツの導入 ○市税の収納率向上 口座振替依頼書の配布拡充、徴収困難事案の茨城租税債権管理機構への移管などによる徴収率向上 <p>【施策③：公共施設等の効率的な運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○行政サービスの民間委託等の導入 ICT技術を活用した業務効率化(RPA、AI-OCRの導入)、窓口業務へのキャッシュレス決済の導入、民間委託導入に関する調査 							
取組の 成果	<p>【人材育成・働き方改革】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成基本計画に基づき、様々な研修機会を確保し、職員のスキルアップに貢献 ・特定事業主行動計画に基づき、働き方改革を推進し、時間外勤務の総時間数を縮減 <p>【財政運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政運営の適正化、事業のスリムアップを図るため、予算の部単位の「枠配分」を実施 ・財源の確保として、3施設でネーミングライツを導入 ・茨城租税債権管理機構と連携し、徴収率98パーセント台を維持 <p>【行政サービスの民間委託】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT技術の導入(RPA、AI-OCR、キャッシュレス決済)による利便性向上と業務効率化 							
取組の 課題	<p>【人材育成・働き方改革】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成の方針や働き方改革の考え方など、事業目的の職員間での共有の徹底 ・働き方の多様化、複雑な社会情勢などへ柔軟に対応できる組織機構・人事制度の確立 ・職員数の減少、業務量の増加などによる職員の疲弊などへの対応 <p>【財政運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政運営に関する現状や課題、事業目的の職員間での共有の徹底 ・事業ベースでの財源の確保、人口減少社会を見据えた適正な財政運営の手法の確立 <p>【行政サービスの民間委託】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・society5.0など、社会の要請に応じたICT技術の活用による市民サービスの向上 ・市民ニーズを的確に把握し、市民サービスへ反映すること 							
数値目標	ベース値 (H27)	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	目標値 (R3)	
① 市役所の仕事ぶりに満足している市民の割合(%)	39.5	-	38.2	-	-	38.4	45	
分析	<ul style="list-style-type: none"> ・数値的な変化は、若干の減少傾向 ・市民ニーズの多様化・複雑化などによる対応が十分にできない状況が生まれている可能性 							

3 次期最上位計画への反映

将来予測と 方向性	<p>【将来予測】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少や社会情勢の変化に伴い行政需要も多様化・拡大傾向 ・職員数は総じて減少傾向に。一定期間、年代構成の不均衡が顕著に ・新型コロナウイルス感染症の影響により税収減が懸念 ・自治体DXの進展。市民サービスのあり方や職員の働き方も大きく変化する可能性 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員一人ひとりの能力の最大化を発揮し、効果的・効率的な行政運営を担っていくことが必要 ・働き方の多様性を求める動きへの適切な対応(組織体制、人材育成など) ・民間との連携、民間事例の活用など、「民」の力も活かした取組の必要性 ・職員間、職員と市民間のコミュニケーションのさらなる充実 ・社会情勢の変化に敏感に反応できる情報収集力の向上、収集した情報の的確な具現化
--------------	---